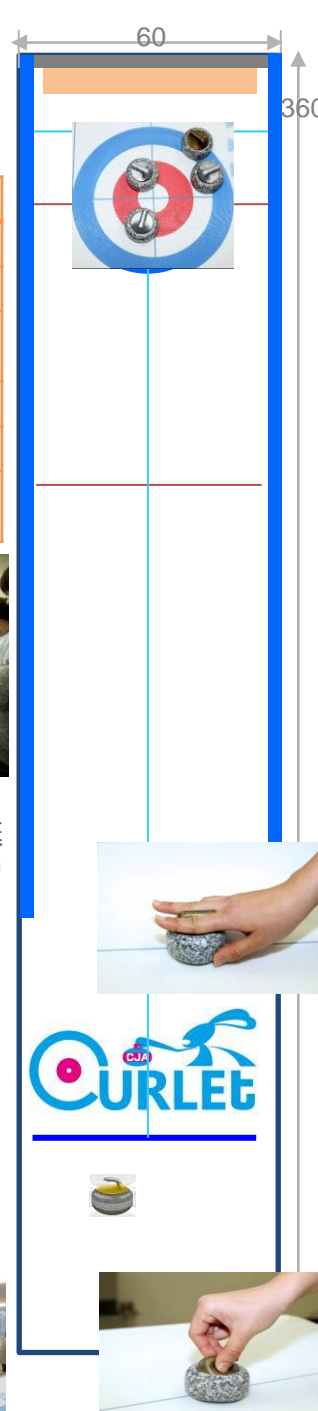


氷上のカーリングをフロアで行う、世界初のコミュニケーション スポーツ ゲーム『カーレット』(造語・商標登録済み)は、千葉大学保健体育科同窓会(渡辺文雄会長)の間で発案・開発、2012年4月に、カーレット普及を目的として、当協会を発足させました。



**協会役員**

- 名誉会長 植竹照雄(東京農工大学教授)
- 理事長 田辺陽二
- 理事 中野 実(元:中学校体育教員)
- 関塚信夫(現:IT企業役員)
- 福田美知子(元:経団連事務局員)
- 鶴見保憲(現:中学体育連盟事務局長)
- 三瓶繁男(現:千葉県剣道師範)
- 山岸信和(現:千葉聖心高校校長)
- 武藤勝明(現:神奈川県南足柄郡自治会長)
- 下田正行(現:清和大学講師)
- 菱沼博幸(現:IT企業役員)
- 監事 木下 誠(現:自営業、町会役員)

**主なカーリングとカーレットの違い** (競技ルールはほぼカーリングと同じです)

	カーリング	カーレット
対戦者数	4人対4人 8人	3人対3人 6人
ゲーム数	10回戦	8回戦(公式競技)約45分
競技場	42.06m 幅4.75m 氷上	3.6m (ビリヤードの長さ約3m) 幅0.6m 室内(床・畳・机上)
ストーン	直径20cm 重さ20kg	直径6.5cm 重さ300g
スイーピング	○	×
ストーン曲変化	投球する際の手とスイーピングで調整	左右のエプロン(右図青部分)をビリヤードと同じように使用



**効果**

**効果1、発育児童のスポーツ嫌いをなくす。スポーツ嫌いの青少年をスポーツ好きにする**  
 東京未来大学の川田裕次郎こども心理学教授は、発育児童がスポーツ嫌になる要因の一つに、同学年の4月～3月生まれの誕生月差から生じる発育差からくる劣等感にあると学会で発表、そのスポーツ嫌いをなくすスポーツツールとして、又自然と集中力を養うと評価、文京区の久堅保育園、船橋ひかり幼稚園等からも同様の評価があります。  
 東京農工大の植竹照雄教授ゼミでは、スポーツ嫌いになった学生をスポーツ好きにすることができるとして、授業で取り上げています。その成果は大きく、前期受講生30人が後記は倍の60人の受講生になっています。

**効果2、世代、障害者が一緒にできるスポーツ**  
 各地域でコミュニティー競技の開催が行われ、高校の部活動、文化祭、市民祭等さまざまな形で受け入れられています。又2歳と83歳の方が同一チームでプレー、大会では車椅子利用者も参加し、2013年神奈川大会は、地元の車椅子利用者が見事優勝しました。等々協会の活動目的を具現化しています

**効果3、自閉症の児童、青少年に対し効果を発揮しています**  
 杉並区の中学校では12人の競技者に3人の自閉症の生徒がおり、その3人のプレーしている明るい姿に、先生も生徒もビックリ、自閉症に効果があると高い評価を得ました。又千葉の高校でも同じ効果があり、カーレットを続けることで成績も上がっています。

